令和８年度新潟県病害虫発生予察情報・特殊報第１号
（チュウゴクアミガサハゴロモの初確認）

令和８年 10 月 22 日
新潟県病害虫防除所

１　害虫名　チュウゴクアミガサハゴロモ（カメムシ目ハゴロモ科）
学名：*Pochazia shantungensis*（Chou & Lu, 1977）

２　寄主植物
かんきつ類、キウイフルーツ、ブルーベリー、りんご、もも、かき、ぶどう、くり等

３　発生確認の経過
（１）令和８年10月５日、下越地域のかんきつ樹でチュウゴクアミガサハゴロモと疑われる成虫を採取した。
（２）採取した成虫を新潟県園芸研究センターおよび新潟県病害虫防除所がチュウゴクアミガサハゴロモと同定した（写真１）。
（３）その後、新潟地域のかんきつ樹や中越地域のダイズほ場においても確認されている。

４　国内の発生状況
本種は中国原産の害虫であり、国内では平成29年に大阪府で初めて発見された。以降、本州、四国および九州の各地で発見され、令和８年10月14日現在、本県を含め国内32都府県から特殊報が発表されている。

５　形態および生態
（１）成虫の体長は11～15㎜。前翅は茶褐色～鉄錆色のろう物質の粉をまとい、前翅長は10.0～13.5㎜。前翅前縁中央部には三角形の白斑がある（写真１）。
（２）幼虫は白色で、体長は１齢では1.19～1.28㎜、５齢（終齢）では3.18㎜～3.28㎜（写真２）。
（３）卵は白色の楕円形で直径約１㎜（写真３）。直径10㎜以下の新梢など細い枝を選好し、雌成虫が産卵管で維管束部に達するほどの傷をつけ、その空間に産卵する。産卵後、白色で綿状のろう物質を分泌し、産卵部位を被覆する（写真４）。
（４）国内での発生生態は十分に解明されていないが、卵で越冬し、年間世代数は埼玉県で２から３世代、和歌山県では２世代と推定されている。
（５）寄主範囲は極めて広く、ミカン科、ツツジ科、バラ科、カキノキ科などの果樹、キク科、ユリ科などの花き類、マメ科など多くの植物を寄主とする。

６　被害
（１）成虫が枝に傷をつけて産卵するため、維管束が破壊され、枝先が枯死したり、産卵部位がもろくなったり、重さにより枝折れが発生したりする。

（２）成虫及び幼虫が吸汁加害するほか、甘露を排泄することですす病を誘発し、果樹では果実の外観品質を損ねる。
（３）農業生産上は、吸汁よりも成虫の産卵による被害が大きい。

７　防除対策
（１）産卵痕がある枝は見つけ次第除去するなど物理的防除を実施する。
（２）令和８年10月14日現在、PAP乳剤及びブプロフェジン水和剤が桑のハゴロモ類に適用がある他は、本虫を対象にした登録農薬はない。

８　参考文献

・井口ら（2026）　和歌山県におけるチュウゴクアミガサハゴロモの発生時期と成虫の誘殺消長 関西病虫研報68巻
・酒井和彦ら（2025）　埼玉県におけるチュウゴクアミガサハゴロモの発生について 植物防疫第79巻第10号
・農林水産省植物防疫所（2026）　植物防疫所病害虫情報第140号

写真１　チュウゴクアミガサハゴロモ成虫

写真２　チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫

写真３　チュウゴクアミガサハゴロモの卵（提供：富山県農林水産総合技術センター）

写真４　チュウゴクアミガサハゴロモの産卵痕（提供：長野県農業試験場）